

ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く島っ子の育成

南知多町立日間賀中学校

<連携校：日間賀小学校>

1 実践のねらい

本校は離島に位置する、全校生徒 56 名の小規模校である。漁業と観光業が両立した活気ある地域は、学校の教育活動にも大変理解があり協力的である。また、地域行事を通じて地域の発展に小中学生が参画することを歓迎するとともに、それを期待する動きも強くなってきている。

本校は、育てたい生徒像を「自分たちの島に誇りと愛情をもち、心豊かで、自ら学び、気付き、考え、行動することのできる生徒」とし、経営方針では「この島のすばらしさや小規模校のメリットを十分に生かす」ことを挙げて、従来より地域に密着した教育活動に取り組んでいる。

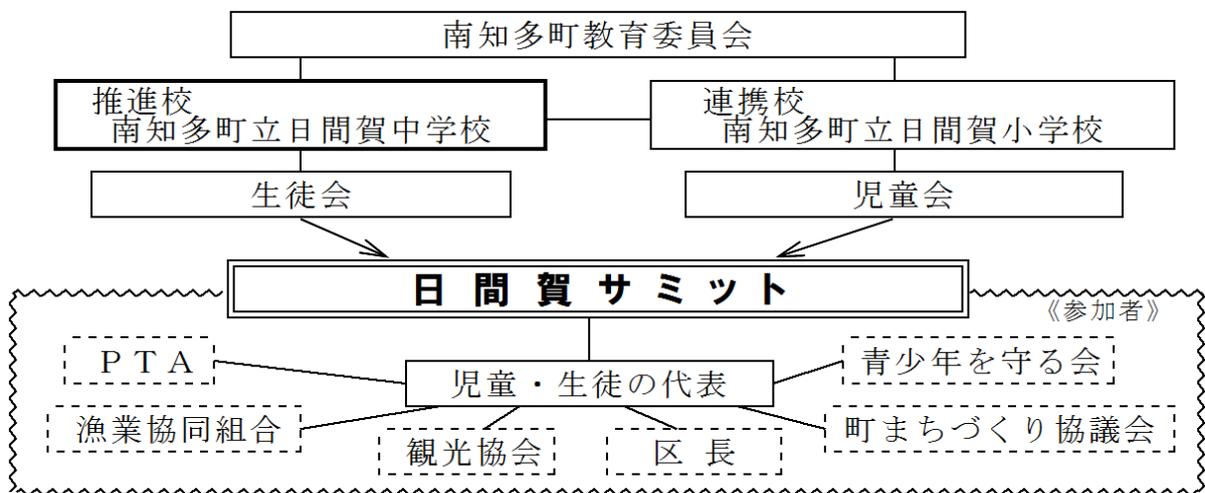
今年度、今までの取組について改めて生徒自身に振り返らせるとともに、次の二つの点をねらいとして、小学生や保護者、地域の方々と島の現状や将来の姿について直接意見交流をする『日間賀サミット』を計画し、実践に取り組んだ。

- 地域に住む同年齢、異年齢の子供たちが、一緒に地域行事への参加の仕方や地域の将来について考える機会を設定することで、将来を展望し、自ら学ぼうとする力を育成する。
- 地域の行事へ参加したり、地域の発展のための活動を行ったりすることで、郷土を理解し、郷土を愛する心を培うとともに、人との関わりを深めるコミュニケーション力を育成する。

2 実践の内容

(1) 活動の体制

ねらいに迫るために、次のように『日間賀サミット』を位置付け、取り組んだ。



(2) 第1回『日間賀サミット』の開催

まず、毎年行っている活動への取り組み方や、更に島をよくするための新しいアイデアについて、家族とともに考えたことを、学級で話し合って意見をまとめた。

6月30日に『第1回日間賀サミット～島をもっと元気にするプロジェクト～』を本校にて開催した。初めての開催で、代表として参加していた児童・生徒はやや硬くなった様子であったが、各学級で話し合ったことをしっかりと発言する姿が見られた。また、参加した大人の方から「皆さんは、どんな日間賀が自慢できますか」「この中の大人に何か聞きたいことはありますか」などと質問される場面もあった。また、サミットの中で、実現可能なアイデアとして、「子供たちが描いた絵をもとに看板を作成し、島内各所に立てる」ことが提案され、多くの賛同のもと、取り組むこととなった。

(3) 「島を元気にする看板」作成に向けて

第1回『日間賀サミット』での話し合いを受け、小学校4年生以上の児童と中学校の生徒全員がポスターを作成した。「漁業の部」「観光の部」「環境の部」「その他の部」の4部門に、島に対する思いや観光客へのメッセージを込めたポスターが寄せられた。作品は学校祭での生徒、保護者による投票を経て、後述する第2回『日間賀サミット』で決定された。サミットで話し合われたことが、大人の協力を得て実現していくという、児童・生徒にとって今後の活動の指針となる取組になったといえる。

(4) 地域に根ざした活動を目指して

第2回『日間賀サミット』に向け、今年度の活動について児童・生徒が振り返り、各学級で話し合った。その内容は次のようなものである。

ア 地域行事への参加

祭りや敬老会など地域の行事で、総合的な学習の時間での取組を生かして和太鼓演奏を披露している。敬老会に関して生徒から「おじいちゃん、おばあちゃんが笑顔になっていた。和太鼓演奏は続けていきたい。小中合同で何かできたら、もっと喜んでくれると思う」との声が上がった。

イ 環境美化活動

小中学生が協力して行っている『浜清掃』や『島っ子クリーン活動』について、「もっと広い範囲を掃除できるといい」「観光客とともにできる活動があるとよい」などと、新たな活動を模索する意見が見られた。

ウ 将来を見据えた活動

『漁業体験』を振り返っての「将来漁師になる人も多いし、いい体験だと思う」「漁師さんへのインタビューもしてみるといい」という感想や、『島っ子クリーン活動』での「観光客の方が、ごみを拾っている僕たちの姿を見てくれた。何かを感じ取ってくれたらいい」という報告からは、漁業や観光業の振興への意気込みが感じられた。

(5) 第2回『日間賀サミット』の開催

看板作成の取組、夏季の諸行事の振り返りのために、11月14日に2度目の『日間賀サミット』を開催した。事前の各学級での話し合いも、サミットでの話し合いも、1回目と比べ、大変充実したものになった。今後実現可能な取組のアイデアとして、次のような意見が交わされた。



【第2回『日間賀サミット』での意見交流】

- ・毎年行っている浜清掃などの美化活動を、小中学生と大人が協力して行う
- ・敬老会の行事で、お年寄りと子供たちが触れ合う機会を設ける
- ・交通安全やごみのポイ捨て禁止を呼びかける

「大人も子供もみんなが『日間賀島が好き』だと、話し合いを通して分かった」「小学生がとてもいい考えをもってすごいと思った」など、参加者の思いが通う機会になった。

3 実践の成果や課題

2回の『日間賀サミット』を通して、生徒自身が改めて「島に生きる自分」を振り返るとともに、島の大人の方から直接意見を聞く機会を設定することができた。参加した生徒の9割以上が「島を見つめるよい機会なので、ぜひこれからも続けていきたい」など、サミットの継続を願うとともに、島の将来の担い手としての自覚の高まりがうかがえる回答をした。来年度以降も継続していくことで、より内容は充実していくだろう。

地域との密接な関わりの中で、島の将来の担い手にふさわしい資質を育成することとは、学びの必要性や学ぶ必然性を生徒の中に育むことでもある。産業、環境、水産資源、人口など様々な視点から、持続可能な発展の在り方を考えさせる機会として『日間賀サミット』を位置付けることで、離島という地理的条件が今後の教育活動にプラスに働くことにつながると考えている。